

リ・シンビズム そして未来へ Re-SHINBISM 2

2024.7.28 sun → 9.1 sun 10:00-18:00 火曜休館 【入場料】一般500円(300円)、高校生以下無料
 ※()内は20名以上の団体料金。 ※障がい者手帳、療育手帳をお持ちの方と付添の方1名は無料。

茅野市美術館 〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目1番1号(茅野市民館内) TEL.0266-82-8222/FAX.0266-82-8223

問い合わせ=信州アーツカウンシル((一財)長野県文化振興事業団 アーツカウンシル推進局)
 〒380-0928長野市若里1-1-4県立長野図書館内1階 TEL.026-223-2111/FAX.026-223-2112/email: info@shinbism.jp

SHINBISM 2024
シンビズム

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

信州アーツカウンシル

シンビズムは、2016年度より長野県芸術監督の本江邦夫氏のもと、県内美術館などの学芸員が所属を超えて交流し、同じ立場で協議しながら信州ゆかりの出品作家を選定、これまでに第1回～第5回展まで計18会場にて全76名の作家を紹介してきました。

その活動は全国でも稀有な取り組みとして注目を集めています。

本展は、シンビズム2(2018年)の作家たちに焦点をあて、県内4館で同時開催した作家の作品が茅野市に一堂に会することで、その後の6年間を振り返り、作家たちがいかに進化し、現在どのような作品を作っているかを示し、今を見つめる企画展としたいと考え、「Re-SHINBISM 2」と名付けました。

「Re」には「再び」の他に、Reconsider(再考する)、Reborn(再生)、Relate(共感する)、Respect(尊重する)の意味も込めています。

また、シンビズムは、2023年度から県の「アートを活用した学び推進事業」のなかで学校での対話鑑賞の普及を目的として教員向けワークショップの実施やモデル校へのファシリテーター(学芸員)派遣を進めています。

Re-SHINBISM 2 そして未来へ

ご来場の皆様とともに改めてシンビズムの意義や長野県の現代美術を考える機会にできればと思います。本事業の継続的な実施により県民の芸術鑑賞機会の拡大を図り、現代作家への全県の支援の拡充や、学芸員の意識共有と資質の向上、県内美術館・博物館のネットワーク化の促進、県全体の美術振興につなげていきたいと考えています。

* 展覧会名の「シンビズム」は「信州の美術の主義」の造語で、新しい美術、真の美術、親しい美術等の意味を含んでいます。

■イベント情報

8/4[日]13:30～ 場所:茅野市美術館
作家、顧問、学芸員によるギャラリートーク

関連企画(日程が決まり次第、公式サイト等でお知らせします)

- ◎ 県内教員、県内学芸員を対象とした各対話鑑賞ワークショップ
- ◎ 諏訪圏域の小中学校にむけた対話鑑賞
- ◎ 来場者にむけた対話鑑賞イベント




越ちひろ(絵画)
《Daydreamer》2020年
キャンバスに油彩



**上田謙二
(ミクストメディア)**
《髪に花を飾るといよいよ》2022年
木製パネルに綿布、アクリル絵の具、FRP、陶板、バラの花等



山内悠(写真)
《惑星》2020年
Chromogenic print
(発色現像方式印画)




**OZ-尾頭-山口佳祐
(絵画、パフォーマンス)**
《ひとつみ -鎮-》2018年
アクリル・キャンバス
安曇野市豊科近代美術館所蔵



齋藤春佳(絵画、インスタレーション)
《雪はひとつの方向に溶ける／あらゆる方向に舞う》2024年
油彩、キャンバス



**Yoshimi Hayashi
(インスタレーション)**
《The Offering Series: Olla #2》2023年
Digital photographic print



藤野貴則(陶芸)
《ペットボトル 一輪挿し》2022年
磁器



中村眞美子(版画)
《ユキノカゼ30》2023年
ドライポイント



高木こずえ(写真)
《wink》2024年
インスタントフィルム
© Cozue Takagi Courtesy of TARO NASU



橋本遥(漆芸)
《境界》2023年
木・漆・金属粉



伊藤純代(彫刻)
《everyday affairs》2018年
ミクストメディア



**山上渡
(絵画、立体インスタレーション)**
《セカイノセカイ スクリーン
World of the world: Screen》2020年
Oil on canvas



伊藤三園(切り絵)
《十二ヶ月栄枯花鳥図より
一水仙に鶏一》2021年
おりがみ、箔



西澤千晴(絵画)
《Trying to be a part of your life - b》
2023年 キャンバスにアクリル



末永恵理(油彩)
《Spirit of the forest 22-16》2022年
油彩、キャンバス



**山上晃葉
(ソフト・スカルプチュア、ペインティング)**
《Life form》2020年
ソフト・スカルプチュア



**カミジヨウミカ
(絵画、ミクストメディア)**
《まっかで異次元ウチュウジン》2023年
木製パネル・アクリルガッシュ・
マスキングテープ・油性ペン

主催＝信州アーツカウンシル((一財)長野県文化振興事業団)、長野県／共同主催＝茅野市美術館、茅野市民館指定管理者 株式会社地域文化創造／共催＝東御市、小海町教育委員会、信濃毎日新聞社／後援＝岡谷市教育委員会、諏訪市教育委員会、茅野市教育委員会、下諏訪町教育委員会、富士見町教育委員会、原村教育委員会
顧問＝笠原美智子(長野県立美術館長)／運営アドバイザー＝石川利江(ISHIKAWA地域文化企画室代表)／エデュケーショナルアドバイザー＝三澤一実(武蔵野美術大学教授)／企画・構成＝信州ミュージアム・ネットワーク「シンビズム」ワーキンググループ：工藤美幸(佐久市)、由井はる奈(佐久市立近代美術館)、名取淳一・中嶋実・鈴木一史(小海町高原美術館)、清水雄・山極佳子・大塚菜々美(上田市立美術館)、加藤泰子(心の花美術館 in 上田)、佐藤聡史(丸山晩霞記念館)、山崎麻由・佐野悠斗・小沢和実(東御市)、伊能あずさ(川越市立美術館)、鷹野雪菜・山岸吉郎・河西見佳(イルフ童画館)、酒井重明(市立岡谷美術考古館)、前田忠史・中田麻衣子(茅野市美術館)、小松由以(信州高遠美術館)、矢ヶ崎結花、伊藤幸穂(木曾町教育委員会)、坂口佳奈(木祖村教育委員会)、三澤新弥・塩原理絵子(安曇野市教育委員会)、武井敏((公財)碓山美術館)、富永淳子(安曇野高橋節郎記念美術館)、大竹永明、田中想子(須坂版画美術館)、五味大樹・中村綾子(世界の民俗人形博物館)、田中新十郎(田中本家博物館)、布谷理恵(千曲市アートまちかど)、水橋絵美(中野市立博物館)、小林宏子(前中野市立博物館)、阿部澄夫((一社)一本木公園バラの会 信州中野銅石版画ミュージアム)、関千尋(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館)、小野佳奈、松井正・梨本有見・宮下真美・早川綾音・伊藤羊子((一財)長野県文化振興事業団) 助成＝令和六年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業、一般財団法人地域創造

※掲載作品は出品作品と必ずしも一致しません。